



カケハシ・プロジェクト（招へいプログラム）の記録 対象：米国高校生第1陣（米国）

1. プログラム概要

米国から高校生及び引率者 99 名が 2019 年 6 月 25 日～7 月 2 日の日程で来日し、日本の政治、経済、社会、文化、歴史及び外交政策などの対日理解促進を目的としたプログラムに参加しました。講義、視察、日本人との交流などを通じて幅広く日本を理解する機会を持ち、各々の関心事項や体験について SNS を通じて対外発信を行いました。また、帰国前の報告会では、訪日経験を活かした帰国後のアクション・プラン（活動計画）について発表しました。

【参加国・人数】

米国：99 名

（内訳）

グループ A(25 名)：ノートルダム高校(グアム島)

グループ B(25 名)：ジェームズ・キャンベル高校(ハワイ州)

グループ C(25 名)：米国太平洋戦争博物館推薦校(テキサス州)

グループ D(24 名)：ガーディナー高校、センチネル高校(モンタナ州)

【訪問地】

東京都(全員)、青森県(グループA)、広島県(グループB)、福岡県(グループC)、熊本県(グループD)

2. 日程

6 月 25 日（火） 来日

6 月 26 日（水） 【オリエンテーション】

【講義】SIMA 国際経営研究所 所長 木村 秀夫 氏

【表敬訪問】原田 義昭 環境大臣、鬼木 誠 衆議院議員(グループ C)

4 グループに分かれ、グループ A は青森県、グループ B は広島県、グループ C は福岡県、グループ D は熊本県へ移動

6 月 27 日（木）～6 月 30 日（日） 地方プログラム

(1) グループ A：青森県	(2) グループ B：広島県
【表敬訪問】工藤 祐直 南部町長 【地域概要講義の聴講】南部町交流推進課、NPO 法人青森なんぶの達人村 【視察・体験】座禅(法光寺)	【地域概要講義の聴講】福山市役所観光課 【視察】株式会社エフピコ福山リサイクル工場

<p>【視察・体験】 さくらんぼ狩り(東農園) 【学校交流】 八戸学院光星高等学校 【視察】 八戸ポータルミュージアムはっち 【ホームステイ対面式】 【ホームステイ】 南部町 【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ(報告会準備)】</p>	<p>【視察】 福山城 【表敬訪問】 杉野 昌平 福山市副市長 【学校交流】 福山市立福山中・高等学校 【ホームステイ対面式】 【ホームステイ】 福山市 【文化体験】 ミニ畳作成 (内海ふれあいホール) 【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ(報告会準備)】</p>
(3) グループC: 福岡県	(4) グループD: 熊本県
<p>【表敬訪問】 小川 洋 福岡県知事 【地域概要講義の聴講】 福岡県国際局国際課 【視察】 筑前町立大刀洗平和記念館 【文化体験】 大川伝統工芸 組子 (仁田原建具製作所) 【視察】 株式会社関家具 【学校交流】 福岡県立太宰府高等学校 【視察】 太宰府天満宮 【ホームステイ対面式】 【ホームステイ】 太宰府市及び同市周辺 【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ(報告会準備)】</p>	<p>【表敬訪問】 小野 泰輔 熊本県副知事 【意見交換】カケハシ・プロジェクト前参加者 【地域概要講義の聴講】 熊本県危機管理 防災企画顧問 有浦 隆 氏「熊本地震 の教訓」 【視察】 JR 九州熊本総合車両所 【視察】 熊本城 【学校交流】 熊本県立熊本高等学校 【学校交流】 熊本県立済々黌高等学校 【ホームステイ対面式】 【ホームステイ】 熊本市, 菊池市 【ホームステイ歓送会】 【ワークショップ(報告会準備)】</p>

7月1日(月) 東京都へ移動

【報告会(訪日成果・帰国後の活動計画発表)】

【視察】 浅草寺(グループA/B/D)

【視察】 明治神宮, 原宿(グループC)

【夕食会】 中山 泰秀 衆議院外務委員長(グループC)

7月2日(火) 【視察】 明治神宮・原宿(グループA/B/D)

【表敬訪問】 青山 繁晴 参議院議員(グループC)

【視察】 お台場(グループC)

離日

3. プログラム記録写真

全グループ（東京都）



6/26【オリエンテーション】



6/26【講義】SIMA 国際経営研究所
所長 木村 秀夫 氏



6/26【表敬訪問】原田 義昭 環境大臣
(グループ C)



7/1【視察】浅草寺(グループ A/B/D)



7/1【報告会（訪日成果・帰国後の活動計画発表）】



7/1【成果報告会】カケハシ・アワード受賞式

グループA（訪問地：青森県）



6/27【表敬訪問】工藤 祐直 南部町長



6/27【視察・体験】さくらんぼ狩り(東農園)



6/27【視察・体験】座禅(法光寺)



6/28【学校交流】八戸学院光星高等学校

グループB（訪問地：広島県）



6/27【視察】
株式会社エフピコ福山リサイクル工場



6/27【視察】福山城



6/28【表敬訪問】杉野 昌平 福山市副市長



6/28【学校交流】
福山市立福山中・高等学校

グループC（訪問地：福岡県）



6/27【地域概要講義の聴講】
福岡県国際局国際課



6/27【視察】筑前町立大刀洗平和記念館



6/28【文化体験】大川伝統工芸 組子
（仁田原建具製作所）



6/28【学校交流】福岡県立太宰府高等学校

グループD（訪問地：熊本県）



6/27【地域概要講義の聴講】熊本県
危機管理防災企画顧問 有浦 隆 氏



6/27【視察】JR九州熊本総合車両所



6/28【学校交流】熊本県立熊本高等学校



6/30【ホームステイ歓送会】

4. 参加者の感想（抜粋）

グループA（訪問地：青森県）

◆ 日本理解講義から、日本の文化、生活、日本が抱える今日の課題、主に人口の減少、高齢化、食糧の6割が輸入に頼っていること、さらにこれまで知らなかった歴史についても学ぶことが出来ました。学校交流では、八戸学院光星高校を訪ねた際、多くの学生が流暢に英語を話しコミュニケーションをとってくれたことに驚きました。平仮名や漢字を書くのはとても難しかったのですが、周りの生徒さんに助けをいただきました。東農園では、初めてさくらんぼを食べる機会に恵まれました。青森県でほとんどのフルーツの生産が可能であることを学び、とても驚きました。また、南部町の町長に歓迎していただきました。町長に表敬訪問できて光栄です。町長は、農業が地域主幹産業であること、今後さらに農業従事者が増えることを期待しているというお話をしてくださいました。今回の来日で一番思い出深いのは南部町でのホームステイです。受け入れてくださった家族は私たちを大歓迎し、また色々なところに連れて行ってくれました。心から感謝しています。

◆ どこを訪ねても多くの情報を得ることができ、多くを学ぶことができました。日本について学ぶ機会が多いため、滞在を延長してさらに学びたい気持ちが強くなり、帰国が残念でたまりませんでした。いつの日か再び日本を訪問し、日本についてもっと学びたいという気持ちが湧いてきました。学校交流は本当に楽しい時間でした。どこをとっても楽しい思い出です。同年代の学生に出会い、揺るぎない友情を育みました。書道を通じた交流は最高でした。学校交流を通して、お互いの日々の生活、趣味や興味関心を持っていることについて話しました。それぞれの文化的な背景について垣間見ることができ、共によく笑ったことは忘れがたい経験です。町民の皆様はどなたも本当に優しく、滞在中は心から楽しく過ごしました。ホームステイは忘れられない経験でした。ホストファミリーのお母さんは本当に素晴らしく、大いに歓迎してくれました。まるで第二の母のようだ、心から感じました。あんなにすぐにリラックスでき、まるで自分の家にいるような気分になれるとは自分でも予想外のことであり、驚きました。ホストファミリーの農園を訪ね、さくらんぼ狩りを体験し、美味しいさくらんぼをたくさんいただきました。特に印象深かったのはホストファミリーの方々と一緒に食卓を囲み、愉快なひとときをすごすことが出来たことです。初めてお会いしてからお別れするまで、絶えず喜びをもたらしてくださいました。ホームステイは思い出深い経験となり、ホストファミリーの方々とは今後とも交流を深めていきたいと思いました。プログラムを通して、日常の食事や生活を体験することによって日本文化を体感できたのは意義深い経験だと思えます。日本に来て、日本を体験できて、本当に良かったです。

グループB（訪問地：広島県）

◆ 日本理解講義では、日本が世界で置かれている状況がわかり、グローバルな立場で私たちアメリカ市民が協力できることは何かを考える機会となりました。学校交流では、実際にどのような授業が行われているか見学し、日本人高校生と共に書道、茶道等の日本文化を体験することができました。株式会社エフピコ（FPCO）では、食品トレーのプラスチックリサイクル処理施設を見学し、エコトレイの生産工程を見学しました。FPCO福山リサイクル工場が取り組む、プラスチックごみのポイ捨てをなくすリサイクル運動に大変、感銘を受けました。プログラム中最も楽しみにしていたホームステイでは、すっかり日本の家庭に溶け込んで異文化体験をしました。餅つきをホストファミリーに教わり、最後の夜のバーベキューも皆で存分に楽しみました。歓送会での大好きなホストファミリーとのお別れはさみしいひとときでした。忘れられない思い出をたくさん作ってくださったホストファミリーにまた会えるよう願っています。

◆ 東京での日本理解講義は大変興味深く、広く学ぶことができました。福山市の地域概要講義では、薔薇を戦後復興のシンボルとして市中に育ててきた経緯を知り、感動しました。福山市庁舎や職員の方々の働く様子を見学することもできました。さらに副市長が私たち高校生に興味のある質問で和やかに対話をしてくださり、楽しく有意義な表敬の時間を過ごすことができました。福山高校との交流では、言葉の壁を心配しましたが、学校交流がこんなに楽しいものとは思っていませんでした。同世代の彼らとコミュニケーションをしているうちに、日本のことをもっと学びたいと思うようになりました。

ホームステイは家庭での体験の一つ一つが心に刻まれています。お菓子作りや茶道、浴衣をはじめ、ホストファミリーと共に素晴らしい経験をすることができました。当初言葉も通じない状況の中、ホームステイを体験することには抵抗感を抱きましたが、様々なおもてなしを通してホストファミリーの方々は言語の壁を越え、寄り添ってくださいました。それだけに、ホームステイは一生忘れられない経験となり、御家族の方々とのお別れも涙でいっぱいでした。

グループC（訪問地：福岡県）

◆ 日本理解講義で最も印象深かったのは、日本の政府と日本の人々がいかに社会をより住みやすくし、世界とのつながりを積極的に取り組んでいるかを学んだことです。例えば、銃規制の問題です。日本では、銃を所持する場合に所持者を検査する制度があります。一方米国は、銃乱射事件という深刻な課題に直面しており、銃の所有についての改善が必要であると私は考えました。また、参加した講義のうち英語で対応いただいたケースが数回あったことには驚きました。私も含め、多くの米国人は、主に英語だけしか話せませんから、第一言語以外の英語を話す日本人の方々に感心しました。学校交流は素晴らしく、同じ年齢の生徒たちと一緒に過ごす機会に恵まれ、日常の学校生活を見ることができました。また、ホームステイは私の最も気に入ったプログラムでした。ホストファミリーはとてもいい人たちで、素敵な家に住み、いつもニコニコしていました。子供たちは少し英語を話し、お父さんお母さんも、私から英語を学ぼうと努力をしてくれました。「ありがとうございます」という言葉を何度も聞いたことに好印象を受けました。ホストファミリーは、米国に関して興味を示していらっしやっただので、私も自分の生活について話す機会が与えられ、楽しく過ごすことができました。

◆ 日本理解講義では、カケハシ・プロジェクトの目的となる歴史・文化についての重要な情報を得ることができました。学校交流は素晴らしく、私のこれまでの経験したなかで、最も思い出に残るものになりました。生徒たちはとても親切でした。言葉の壁はありましたが、笑いや微笑みがあればお互いを理解するのには十二分でした。企業訪問も素晴らしく、製造分野の様々な分野のうち、体験型ものづくりを経験することができました。官庁への表敬訪問も素晴らしく、このような機会に恵まれたことを光栄に思います。ホームステイは、プログラムのなかでも最もよい経験になりました。私の人生にどれほどの影響をもたらしたか、これを言葉では表すことができません。

グループD（訪問地：熊本県）

◆ 本プログラムは全体的に良い経験となり、モンタナ州と日本の違いを幅広い観点から見る事が出来ました。天候や環境の観点から見ても、モンタナは大変乾燥していて茶色い風景の田舎に比べ、日本は湿度が高く、緑が濃く、人口が密集しています。学校交流においては、大いに楽しみました。学校を訪問し、まず靴を脱ぎ、教室へ向かいました。そこでスタッフの方々の歓迎を受け、日本の生徒たちが迎えに来てくださり、学校生活を共に過ごしました。私たちは英語と美術の授業に参加しました。どちらの授業もモンタナの高校と日本の高校が共通する点、異なる点がありました。日本の学生と一

緒に昼食をとり、友好を深めました。ホームステイも大変すばらしい体験でした。家族と一緒に街に行きました。温泉は、想像以上に、とても楽しい経験でした。着物を着せていただき、神社やスーパーマーケットに出かけました。家庭では、流しそうめんをしたり、たこ焼きを作ったりしました。あらゆる場面で大歓迎を受け、とても楽しい時間でした。

◆ カケハシ・プロジェクトは大変すばらしいプログラムで、大変強い印象を受けました。プログラムの調整や運営にも驚きました。東京で行われた日本理解講義は、日本の旅の始まりにふさわしく、日本の基本的な情報や様々な側面について解説いただき、日本の文化、社会、経済を理解するための素晴らしい入門講義となりました。二番目に好きなプログラムは、学校交流であり、2つの高校との学校交流を通して、親しい友人を作ることができたことは、大きな喜びとなりました。時には言葉の壁を感じることもありましたが、それを乗り越えて、確かな友情を築くことができました。私が笑顔でなかった時は一秒たりともありませんでした。多くの方に親切にいただき、私は、日本の生徒の皆さんとの絆を感じました。彼らともっと長く過ごせたらと心から思いました。JR九州訪問は大変有益でした。日本の経済や技術を学ぶ機会となりました。熊本県庁では、日本の文化交流の紹介があり、JETプログラムで英語を教えているモンタナ州出身の英語講師と話をする機会がありました。カケハシ・プロジェクトは、私たちと日本をつなぐ、大変有意義な内容だと思いました。ホームステイは、私の一番大好きなプログラムでした。ホームステイを通して、ホストファミリーと知り合い、彼らの大きな愛情に触れることができました。ホストファミリーは、日本の生活や文化を教えてくださいました。はじめは全く知らない者同士でしたが、最後には家族になりました。ホームステイ中に受けたもてなしや温かさは、いつまでも心に残るでしょう。最も悲しかったことは、彼らに別れを告げたことです。私は、彼らと過ごした大切な時間と思い出を永遠に大切にします。プログラム全体を通して、日本をより深く知ることができました。この思い出を一生忘れることはないでしょう。

5. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ ホストファミリー（グループA）

ホームステイ滞在中、子供たちにりんごの農作業を体験してもらいました。子供たちは、農作業をすることは初めてと聞いていたので、心配しておりましたが、一生懸命に頑張ってくれました。午後の作業では、子供たちの歌声も響いて、私たちも楽しく作業をすることができました。

◆ 学校交流参加学生（グループB）

学校交流では、初めてバディとなりました。最初は緊張して上手にコミュニケーションを取るのが難しかったのですが、相手の方が優しく接してくれたおかげで楽しく会話することができました。特に書道の説明することは、大変でしたが、相手に伝えようと一生懸命話したら伝わりました。その時の喜びと達成感は忘れられません。今回の異文化の交流を通じて国際交流に関する意欲が高まりました。

◆ ホストファミリー（グループC）

国や文化が違って日本の高校生との共通点を多く見つけることができました。おにぎり弁当を持って志賀島の海岸に行ったことをとても喜んでくれました。今回の学生をいつまでも応援したいと心から思いました。大変貴重な体験ができたことに感謝しております。今後もこのようなプログラムを継続していただきたいと思ひます。

◆ 学校交流参加学生（グループD）

今回の交流を通して改めてコミュニケーションの大切さを実感しました。モンタナの生徒さんと学校を案内したり、授業を受けたりする中で、英語で会話する機会やモンタナを知る機会が多くありました。また熊本や日本について発信でき、日本についてもっと知りたいと思ひました。とても楽しく、有意義な時間を過ごさせていただき、関係者の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

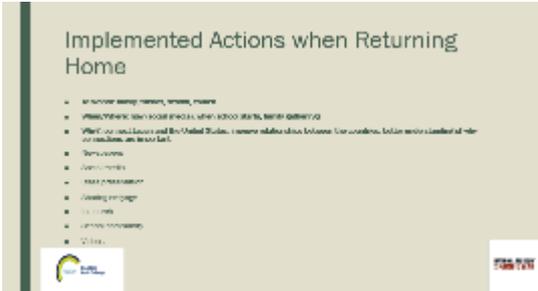
6. 参加者の対外発信

 <p>kakehashi671</p> <p>Liked by kalani671 and 40 others</p> <p>kakehashi671 The Jiisugi tree is over a 1,000 years old and reminds us that our past will live on into the future. We are here to build a bridge from our roots</p>	 <p>xsydneyr · Follow Japan</p> <p>77 likes</p> <p>xsydneyr so happy to have been a part of such a great experience! "building bridges" between our countries was unforgettable <3 #kakehashi2019 #kakehashiaward</p> <p>4 HOURS AGO</p> <p>saabbb_ · Follow Fukuoka Prefecture</p>
<p>南部町についての発信 (Instagram)</p> <p>樹齢 1,000 年の法光寺の爺杉は、過去が未来につながっていることを教えてくださいました。私たちのルーツから日本の皆さんのルーツへ、架け橋をかけるためにここに来たのだと思ひました。</p>	<p>カケハシ・プロジェクトについての発信 (Instagram)</p> <p>日米両国を結ぶ懸け橋として、この素晴らしい経験ができたことを幸せに思ひ、いつまでも忘れないでいます。</p>

	
<p>ホームステイについての発信 (Instagram) メアリーとホストファミリーのお父さんとのジャム・セッション (即興演奏)</p>	<p>視察についての発信 (Instagram) JR 九州新幹線総合車両基地の見学をしました。いつか新幹線がモンタナにもやってくるかな。</p>

7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p>アクション・プランの発表 (グループ A) 目的: SNS への発信 対象: 若い世代, 両親等の世代 計画: ・インスタグラム: 金曜農産市場, 月曜日モンタージュ (スライドショー), インタビューを掲載 ・フェイスブック: 文化比較 (動画), 両親等の世代を対象とした文化比較動画を発信 ・ユーチューブ: 若い世代を対象とした動画ショー 目的 2: 発表の実施 計画:</p>	<p>アクション・プランの発表 (グループ B) 目的: リサイクル事業のノウハウや日本の伝統的な価値観をハワイに持ち帰る。 ・持続可能な世界を実現するため ・ハワイの環境保全を確実に成し遂げるための法制定が急務であるため ・日米両国間に限らず地球上のどこでも, 自ら懸け橋となるため 計画: ・日本の伝統的価値観や倫理観 (互いを敬い礼節を重んじる心) を取り入れる ・持続可能な発展を実践する ・社会全体が環境に配慮し責任を持つよう促すプランの実践方法</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・学校：生徒会集会， イベント， 出前 ・校外：日本領事館， ブース出展， PTA イベント， 教育 ・メディア：KUAM 紙， 地方紙， ラジオ局， カトリック協会 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS で訪日中の気づき， 経験を発信する ・我が校で福山エフピコリサイクル工場の実践例を紹介し， 講義を行い， 環境教育を強化する
	
<p>アクション・プランの発表（グループC） 目的：日本とアメリカ合衆国をつなげるために両国の関係をより良くする。なぜつながることが重要かをより良く理解できるようにすることが目的である。 手段：新聞， SNS， 学校での発表会， ビデオ。 対象：家族， 友人， 学校， 教会 計画：今（SNS を使って）， 新学期が始まった時， 家族の集まりの時， お土産を渡す時， 教会， 学校区域の地域の集まりの時。</p>	<p>アクション・プランの発表（グループD1：センチネル高校） 目的：私たちの友人に日本文化を紹介し， 日米の絆を深める。 対象：The Missoulian（地元新聞）， KPAX（地元テレビ局）， 自分の学校（学校放送， 生徒数 1200 名）， 自分達の家族， モンタナ大学（東アジア研究学部）， マンスフィールドセンター， モンタナ世界情勢協議会 計画：来日中撮影した様々なプログラムや， 景色の映像を盛り込んだビデオを作成する。それに参加者の経験談を加え， 編集する。自分達の学校や関係各機関を通してビデオを上映し， 様々な人々に日本を紹介する。 実施時期：制作：7 月 発表：8 月</p>

Summary of Action Plan

WHY : (Reasons to do it)
To foster connections and solidify a relationship between cultures.

WHEN : (When will it be done?)
Fall Semester

WHO : (Who will do it?)
Gardiner High School participants on the Kakehashi Project

WHO : (To whom?)
Community members (families, students, and business owners) throughout Gardiner

WHAT : (What are you planning on doing)
Japanese Community Night

HOW : (How will you implement your plan)
We will host many members of our community for a "community night," including students, parents, children, and business owners to explain the influence of Japanese culture in our society. Once we invite people to this event we will do a presentation about our trip on the Kakehashi Project and divide into the following stations: calligraphy, origami, washoku, Zazen meditation, and geography. We hope to make each station interactive for all ages.

アクション・プランの発表（グループ D2：ガーディナー高校）

目的：文化間の交流を図り，絆を深める。

対象：高校の他の生徒たち，両親，子供たちやビジネスを営む地域の方々

計画：私たちの社会の中にある日本文化の影響について紹介する「コミュニティのタベ」を開催する。同イベントでは，まず，地域の人々にカケハシ・プロジェクトでの私たちの旅について発表し，その後，書道，折り紙，和食，座禅・瞑想，地理のステーションに分かれて体験を行う。それぞれのステーションで，様々な年齢層の人々と交流しながら日本文化を伝える。

実施時期：秋学期